

---

# 竹林奇譚 外伝二 生日

すばる & ぴの子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

竹林奇譚 外伝一 生日

### 【ZPDF】

Z60920

### 【作者名】

すばる&ぴの子

### 【あらすじ】

『竹林奇譚』の外伝です。

雲隠の生誕の日の穂やかなひとときのお話。

「はいよ、おめつとわん」  
そういうて、学然は包みを差し出した。

不思議そうな顔をしていると、呆れたよつに彼は言った。

「あんな、今日は何の日だ?」

「7月7日ですから、七夕です」

「あのな……」

くしゃりと学然は前髪をかきあげる。

「お前な……」

「冗談ですよ」

雲隱は笑つて、包みを受け取つた。

「ですが、先ほどまで忘れていたのは本当です」

言いながら包みを開く。

中から出でてきたのは、竹で作られた人形だった。

一胡を弾く 雲隱の姿。

細かいところまで丁寧に作りこまれていた。

「ここ最近、夜遅くまで学然の部屋に灯りがともっていた理由を知る。

「ありがとう、学然」

今にも音を奏でだしそうな人形を手のひらに置き、雲隱は笑みを浮かべる。

思えば、学然がここに住み着いてからは、毎年こうして誕生日が来るたびに祝つてもらつていた。

誕生日がきたからといって、雲隱は歳をとるわけではない。

自分の「とき」は遠い昔に凍り付いてしまったままで、動き出すことはないのだから。

周りとは切り離されたこの世界で、雲隱は一人で生きてきていた。時折、己を求めてやつてくる人々とは、その場限りのひととき。

その者がここを去れば、もう一度と交わることもない。

自分がすでに外の世界で語り合ったの何年生きてきたのかさえ、

雲隠にはわからなくなっている。

だから、誕生日などきても何の感慨もなければ、祝う必要もない。

そう思っていた。

けれど、学然はそれを聞いて顔を大いに怒ったのだ。

誕生日は何も歳をとったことを祝うだけじゃないのだ、と。その者がこの世に生まれてきてくれたことを、周りの者が感謝し、共に喜びを分かち合うためにあるのだと。

彼特有の解釈を披露したのだった。

「なんだ？」

そのときのことを思い出し、思わずふつと笑った雲隠を見て、学然は首をかしげた。

「いいえ。あなたが最初に祝ってくれたときのことと思い出して」「ああ……」

学然も思い出したように笑った。

「結構いいもんだろ？ 祝つてもいいの」「

「そうですね……」

はじめのうちは、妙なことをする男だと思っていた。が、何年かするうちに、祝つてもらうのも悪くない、と思えるようになついた。

学然は見かけによらず、本当に気遣い屋で、祝いのために数ヶ月も前から準備をしてくれている。

これまでもらつた贈り物は、どれも彼の心が込められたすばらしいものばかりだった。

だが、どんな贈り物よりも、雲隠には嬉しいものがある。

「おめでとう。それから、生まってくれてありがとな。 お前に逢えてよかつた」

必ず彼が言ってくれる言葉。

この言葉が、何よりも雲隠には嬉しかつた。

「ありがとう……」

自分は学然が来てから、だいぶ変わったと思う。

自分を少しだけではあるが、好きになることができた。

自分に逢えてよかつた、といつてくれる友がいるだけで、自分を

肯定的に見ることができるようになる。

（わたくしのほうこそ、あなたに逢えてよかつた）

照れたように笑う学然に向かって、再度、雲隠は静かに微笑むの

だった。

(後書き)

『竹林奇譚』の外伝です。

1つ目の外伝と同様に、こちらもサイトできり番を踏まれた方に贈  
らせていただいたものです。

最初に雲隠や学然の人物設定を考えたときには、雲隠の誕生日はしつ  
かりと決まっていたのでありました。  
なんで七夕にしたのかは……忘れました（笑）

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6092o/>

---

竹林奇譚 外伝二 生日

2011年1月9日21時14分発行